第五回課題解説

1. 関数 $f(x) = \sqrt{x}$ の点 a(a > 0) での微分係数 f'(a) を定義にしたがって求める.

$$f'(a) = \lim_{h \to 0} \frac{\sqrt{a+h} - \sqrt{a}}{h}$$

$$= \lim_{h \to 0} \frac{(\sqrt{a+h} - \sqrt{a})(\sqrt{a+h} + \sqrt{a})}{h(\sqrt{a+h} + \sqrt{a})}$$

$$= \lim_{h \to 0} \frac{h}{h(\sqrt{a+h} + \sqrt{a})}$$

$$= \lim_{h \to 0} \frac{1}{\sqrt{a+h} + \sqrt{a}}$$

$$= \frac{1}{2\sqrt{a}}.$$

2. $\tan x = \frac{\sin x}{\cos x}$ に商の微分公式を適用して, $\tan x$ の導関数を求める.

$$(\tan x)' = \left\{ \sin x \cdot \frac{1}{\cos x} \right\}'$$

$$= (\sin x)' \cdot \frac{1}{\cos x} + \sin x \cdot \left(-\frac{(\cos x)'}{\cos^2 x} \right)$$

$$= \cos x \cdot \frac{1}{\cos x} + \frac{\sin^2 x}{\cos^2 x}$$

$$= \frac{\cos^2 x + \sin^2 x}{\cos^2 x}$$

$$= \frac{1}{\cos^2 x}.$$

3. 教科書の問 5.1. z=f(y) が y=g(a) で連続, y=g(x) が x=a で連続なら, z=f(g(x)) は x=a で連続であることの証明. z=f(y) は y=g(a) で連続だから,任意の $\varepsilon>0$ に応じて十分 $\delta>0$ を小さくとると $0<|y-g(a)|<\delta$ なら $|f(y)-f(g(a))|<\varepsilon$ である.関数 y=g(x) は x=a において連続だから,このような $\delta>0$ に対し, $\delta'>0$ を十分小さくとると $0<|x-a|<\delta'$ なら $|g(x)-g(a)|<\delta$ である.したがって,与えられた $\varepsilon>0$ に対して $0<|x-a|<\delta'$ なら $|g(x)-g(a)|<\delta'$ であり, $0<|g(x)-g(a)|<\delta'$ なら $|f(g(x))-f(g(a))|<\varepsilon$ である.よって合成関数 z=f(g(x)) は x=a で連続である.

教科書の問 6.1. (1) $(\cos x)' = -\sin x$ は講義でやりました.講義資料または解説動画を見てください.試し に差を積に直す公式ではなく $\cos(x+h)$ に加法定理を適用したらどうなるかやってみましょう.

$$\frac{\cos(x+h) - \cos x}{h} = \frac{(\cos x \cos h - \sin x \sin h) - \cos x}{h}$$

$$= \cos x \frac{\cos h - 1}{h} - \sin x \frac{\sin h}{h}$$

$$= \cos x \frac{(\cos h + 1)(\cos h - 1)}{h(\cos h + 1)} - \sin x \frac{\sin h}{h}$$

$$= -\cos x \left(\frac{\sin h}{h}\right)^2 \frac{h}{\cos h + 1} - \sin x \frac{\sin h}{h}$$

となる. ここで $h \to 0$ とすると基本極限公式 $\lim_{h \to 0} \frac{\sin h}{h} = 1$ と $\lim_{h \to 0} \cos h = 1$ から

$$(\cos x)' = -\sin x$$

となる. このやり方で公式 $(\cos x)' = -\sin x$ を証明した答案がありました.

(2) 合成関数の微分法を使わないで $(\log|x|)'=\frac{1}{x}$ を証明する.方針は基本極限公式に帰着させることである. x<0 のときが問題なので,以下,x<0 の場合を考える. $y=\log(-x)$, $y+k=\log(-x+h)$ とおくと $h\to 0$ は $k\to 0$ と同じことであり, $\log(-x-h)-\log(-x)=k$, $e^{y+k}-e^y=(-x-h)-(-x)=-h$ だから

$$\begin{split} &\lim_{h \to 0} \frac{\log |x+h| - \log |x|}{h} \\ &= \lim_{h \to 0} \frac{\log (-x-h) - \log (-x)}{h} \\ &= -\lim_{k \to 0} \frac{k}{e^{y+k} - e^y} \\ &= -\frac{1}{\lim_{k \to 0} \frac{e^{y+k} - e^y}{k}} \\ &= -\frac{1}{e^y} \frac{1}{\lim_{k \to 0} \frac{e^k - 1}{k}} \\ &= -\frac{1}{e^y} \times \frac{1}{1} = -\frac{1}{-x} = \frac{1}{x} \quad \left[\lim_{k \to 0} \frac{e^k - 1}{k} = 1 \right]. \end{split}$$

(3) a > 0 とする. 定義にしたがって $(a^x)' = a^x \log a$ を証明する.

$$\begin{split} (a^x)' &= \lim_{h \to 0} \frac{a^{x+h} - a^x}{h} \\ &= \lim_{h \to 0} \frac{e^{(x+h)\log a} - e^{x\log a}}{h} \\ &= \lim_{h \to 0} e^{x\log a} \frac{e^{h\log a} - 1}{h} \\ &= \lim_{h \to 0} e^{x\log a} \frac{e^{h\log a} - 1}{h\log a} \cdot \log a \\ &= a^x \log a \quad \left[e^{x\log a} = a^x \; , \; \lim_{h \to 0} \frac{e^{h\log a} - 1}{h\log a} = 1 \; \text{Fig. 6} \; \right] \; . \end{split}$$